

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立松阪高等学校全日制)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		時代の変化に対応し社会に貢献できる人材を輩出する、地域から信頼される進学校 ＜自主自律＞ 校訓である「自主自律」の精神を持ち、自ら考え、自ら行動できる人を育てます。 ＜知・徳・体＞ 校章に象徴される「知・徳・体」の調和のとれた全人的な発達を図り、地域社会の中心となる人を育てます。 ＜高い志＞ 心豊かな人間性に立脚した「志」を持ち、高い目標を掲げて意欲的に挑戦する人を育てます。
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	・知的な好奇心や興味を持ち、自ら考え活動する生徒 ・命と人権を尊重し、思いやりや規範意識を持つ生徒 ・国際社会で通用する能力やグローバルな視点を持ちつつ、地域社会の活性化や発展に貢献する生徒
	【グラデュエーション・ポリシー】	・以下に示す4つの力を身に付けた生徒 ①課題解決力 ②情報活用能力 ③コミュニケーション能力 ④挑戦する力
	ありたい教職員の姿	・進学指導だけでなく、卒業後の社会を意識させたキャリア教育を行う教職員 ・生徒の成長を自らの喜びとするとともに、自らも成長しようとする教職員 ・働きやすい職場環境で、仕事にやりがいを感じ、いきいきと働く教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	【生徒】 ・学力にあったわかりやすい授業 ・進路に関する適切に必要な情報の提供 【保護者】 ・進路に関する適切に必要な情報の提供 ・子どもの学力にあったわかりやすい授業 ・学校と家庭の連携（学校からのさまざまな情報提供等） 【中学生】 ・入学したら充実した高校生活を送ることができること ・松高生の生活や活躍（進学実績や部活動実績）の様子がわかること	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待 【保護者】 ・子どもが安心して通える学校 ・学校の様子を知りたい 【地域住民】 ・学校からのさまざまな情報提供 ・学校と交流する機会 【大学】 ・入学者の獲得 【卒業生（南窓会）】 ・母校の活躍 ・学校の様子を知りたい	連携する相手への要望・期待 【保護者】 ・教職員との協力 ・家庭での適切な教育力 【地域住民】 ・地域と交流する機会 【大学】 ・体験学習などの受け入れ、出前講座の開催 【卒業生（南窓会）】 ・大学生や社会で活躍する方からの生徒への助言 ・部活動等への支援
(3)前年度の学校関係者評価など	・市内で開催されるイベントへの参加等を通じて、街中の課題を一緒に考えていく機会にしてほしい。 ・会議資料を事前配付するなどして会議の時間短縮を図ることで、子どもたちと関わる時間を増やすことができるのではないか。	

(4)現状と課題	教育活動	・65 分授業の中で講義や演習をバランスよく配置している。生徒にとってさらに充実した授業を展開できるよう努める必要がある。 ・ほとんどの生徒が四年制大学への進学を希望している。 ・1 人 1 台端末を用いた学習活動が効果的に機能するよう、適切な進学指導に努める必要がある。各教科でさらに教材研究を重ね、ICT を授業に活かす必要がある。
	学校運営等	・全国や地元で活躍する多くの人材が輩出した歴史と伝統がある。 ・学校の役割の肥大化や課題の多様化・複雑化の進行により、教員の業務量が増大し、時間外労働が日常的に行われている。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	【SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の推進】 SSHを通して、国際舞台で通用する課題探究能力を育成するよう取り組みます。 【道徳教育】 生徒一人ひとりが命と人権を尊重し、思いやりや規範意識を持つ人間に成長できるよう指導の充実を図ります。 【キャリア教育】 進学指導に注力するとともに、卒業後の社会を意識させて将来の職業や生き方について自覚を促すためのキャリア教育を行います。
学校運営等	【地域との交流】 地域活動への参加や近隣小・中学校等との事業連携等を通して、生徒が地域との交流を深められるようにします。 【授業改善】 生徒が知的な好奇心や興味を持ち、自ら考え活動する授業の創造をめざして、より効果的な学習指導を実践することができるよう、教員が公開授業や授業研究等を通して日常的に授業改善を進めます。 【働きやすい環境づくり】 会議や研修の精選、校務内容や分掌の見直しを行い、創意工夫を凝らした業務の効率化や総勤務時間の削減など、働きやすい職場環境づくりに取り組みます。

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	・自ら学ぶ意欲が旺盛である生徒 ・大学進学等、強い進路意識を持っている生徒 ・物事に対する興味関心が強く、挑戦する気持ちを持っている生徒
-------------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
【SSHの推進】	【教務部】 学校設定教科 SSH「探究」で生徒の活動時間の確保に努めます。 (活動指標:特別編成授業における探究活動時間の確保) 【SSH企画推進部】 探究活動をさらに進めていくため、探究活動を指導する教職員の指導力を向上させる取組を行います。 (活動指標:探究活動に関する教職員の学習会の実施 年1回以上、先進的な探究活動を行っている学校視察 年1回以上)	【教務部】 特編授業等を活用して、SSH「探究」の授業時間を確保した。 【SSH企画推進部】 教職員研修会を1回実施した。(講師:IGS 営業部長) 先進校視察を1回実施した。 (東京都立多摩科学技術高等学校)	◎
【道徳教育】	【生徒指導部】 (1)生徒とのふれあいを重んじるとともに、身だしなみ等について生徒の規範意識を醸成するため、朝の登校時にあいさつ運動と服装指導を行います。 (活動指標:登校時指導の教職員 毎日3名以上) (成果指標:おおよその生徒が朝のあいさつを交わしている) (2)携帯・スマートフォンの適正な利用について助言や指導を行います。 (活動指標:携帯・スマートフォン教室の開催(1年次向け年1回)、全校集会時の呼びかけ 年3回以上) 【人権教育推進担当】 (1)人権に関する講演会及びLHRを実施するとともに、各学年の人権学習をサポートします。 (活動指標:各学年における講演会の開催 年1回以上) (成果指標:松阪地区高人推 人権アンケート(3年生対象)「人権学習について、積極的に受けたし内容もだいたい理解できた」の割合 70%以上) (2)教職員の人権意識を高めるとともに、指導力の充実・向上を図るため、校外等での研修を含む現職教育を積極的に推進します。 (活動指標:教職員の人権教育に関する各種研修の参加 1人あたり 年1回以上) (成果指標:教職員の人権に対する意識や意欲、人権に関する知識が向上している) (3)生徒のこれまでの人権活動の成果を継承し、さらに人権意識を高めるため、地域や小学校・中学校・県立学校での活動等との連携や交流を図ります。	【生徒指導部】 (1)全体として、自らあいさつできるようになってきた。服装に関しては、一部ルールを守れない生徒がいた。 (2)「ながらスマホ」をしている生徒が多い。今後の課題である。 【人権教育推進担当】 (1)人権講演会を各学年1回実施した。(1学年:「部落差別問題」11月、2学年:「障がい者の人権」1月、3学年:「性の多様性」9月)、各学年人権 LHR(1学年:「これまでの人権学習の振り返り」「部落差別問題」2学年:「障がい者の人権に関する課題」「長崎修学旅行に関わる平和教育学習」3学年:「統一応募用紙と進路保障」「高校生活での人権学習の振り返り」)は、学年団を主とした教職員による事前学習会・検討会を行った。成果指標 95% (2)三人教研究大会、松阪地区高人推学習会等に、延べ30名の教職員が参加した。県教委作成資料を基にした、部落問題に関わる各自の人権意識の向上を企図した悉皆研修を実施した。 (3)2学年生徒を中心に、松阪地区高人推の高校生交流事業に積極的に参加し、松阪地	

【キャリア教育】 【保健管理・保健教育】 【教育相談】 【環境美化】	(活動指標:連携・交流の方法や状況に応じて随時検討、地域や小中・県立学校の人権活動との交流の機会 年1回以上) (成果指標:生徒の人権に対する意識や意欲、人権に関する知識が向上している) 【図書部】 生徒の進路実現や職業選択の参考になる資料を重点的に収集、提供するとともに、それらの利用促進に努めます。 (活動指標:「未来設計コーナー」「受験対策コーナー」「学習支援コーナー」の更新 年1回以上) (成果指標:図書の閲覧や貸出が活発にされている) 【進路指導部】 進路指導部及び学年団が連携して進路検討会・研修会を実施し、生徒に対する指導内容の充実を図ります。 (活動指標:検討会・研修会を各学年で4回、全体で1回以上、進路3担(推薦)会議を5回以上、2年学力・進路検討会を1回以上、1年学力・進路検討会を1回以上実施) 【理数科】 卒業後の社会を意識させて将来の職業や生き方について自覚を促すため、大学の研究室や企業等を訪問し、高度な学問や研究を体験する機会を設けます。 (活動指標:大学での研修、大学研究室の訪問、卒業生による大学紹介などの機会 年2回以上) (成果指標:理数科1・2年生の大学等訪問 年1回以上) 【保健部】 心身の健康の保持・増進を図るとともに、主体的に健康な生活を送ることができる生徒の育成を目指し、健康教育の充実を行います。 救急体制の充実を図るとともに、ケガ等の予防教育を行います。また、感染症予防の取組を行います。(健康観察の実施、欠席者の早期把握、手指消毒液の設置、保健指導など) (活動指標:1年生対象「性に関する教育」の実施、ほけんだより年10回以上発行) 【保健部】 すべての教育活動を通して、生徒の悩みや不安の解消に向けた支援や対応を行います。 (活動指標:スクールカウンセラーによる教育相談 年47回実施、教育相談だより 年5回発行) 【保健部】 校舎内外の清掃美化の徹底に努めます。 (活動指標:大掃除 年3回実施) (成果指標:日々の清掃時のゴミ分別の徹底)	区で開催された三重県人教研究大会全大会の司会を担当した。人推担当者を中心に、久保中学校区同推協の学習会等に参加した。 【図書部】 ・生徒の進路実現や職業選択の参考になる資料を重点的に選書、収集し、「受験対策コーナー」を一新した。生徒の閲覧、貸出ものびた。 【進路指導部】 進路検討会等を例年通り実施し、内容の充実も図ることができた。 【理数科】 夏期研修旅行を実施し、理数科1、2年生が東京大学の研究所を訪問し、理数科卒業生と交流する機会を設けた。また、他校理数科と共同で探究の交流を行った。 【保健部】 ・1年生対象に、助産師さんによる性に関する保健講話を実施した。(9月) ・保健だよりを、定期号11回のほか臨時号13回、保健委員会だよりを8回発行した。 ・救急体制の充実に向けた教職員研修を2回実施(エビペン、AED)したほか、今年度赴任した教職員に「スポーツ事故防止ハンドブック」「スポーツ事故対応ハンドブック」を配付した。 ・HR への手指消毒の設置、教職員や生徒への基本的な感染症対策の呼びかけ等を行った。 【保健部】 スクールカウンセリングによる教育相談を47回実施し、教育相談だよりを5回発行した。 【保健部】 大掃除を3回実施した。美化委員会を中心にペットボトルの収集を行った。
改善課題		
・ SSH 第Ⅳ期申請を見越して、引き続き SSH を通して課題探究能力(松高力)を育成する取組を行う必要がある。 ・ 生徒1人1台端末を活用しきれていない現状がある。生徒が1人1台端末を効果的に用いて学習活動することにより、さらなる学力定着・学力向上につなげていく必要がある。		

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
【地域との交流】	【生徒会】 (1)ボランティア活動等への参加を通して、生徒と地域の交流を図ります。 (活動指標:生徒へ参加を働きかけ 年4件以上) (成果指標:参加生徒 年30人以上) (2)本校の文化祭に近隣の小学校児童を招待し交流を進めます。 (活動指標:小学校への参加要請 1件以上) (成果指標:児童の招待 1校以上)	【生徒会】 (1)書き損じハガキ等でアジアの子どもたちの教育を支援するユネスコ世界寺子屋運動の1件の活動にとどまった。 (2)コロナ以降小学校児童の招待ができていない。来年度以降は交流できるように努めたい。	
【情報提供】	【総務部】 (1)本校の保護者を対象に、教育内容や子どもの学習状況について理解を深めていただくため、公開授業を行います。 (2)中学3年生とその保護者を対象に公開授業を行い、在校生の学習状況や学校生活を見学する機会を提供し、本校を身近なものとして捉えることができるようにします。また、松阪高校の取組と魅力を紹介する『高校生活入門講座』を実施します。 (3)生徒の校内外での活動や地域との交流活動の状況を広報するとともに、地域とのコミュニケーションを図り、信頼の構築を目指します。(活動指標:ホームページの更新 月1回以上、報道機関への情報提供)	【総務部】 (1)5月に保護者(約400人参加)対象、8月に中学生とその保護者(約950人参加)対象に公開授業を実施した。 (2)松阪コミュニティ文化センターで中学生とその保護者対象に『高校生活入門講座』を実施(約850人参加)した。 (3)ホームページの整備や刷新に努めたい。	
【授業改善】	【教務部】 (1)「大学入学共通テスト」の分析を進め、各定期考査等において反映します。 (活動指標:各定期考査等において、「大学入学共通テスト」に対応した思考力養成を目的とする問題を出題) (2)観点別評価を円滑に実施します。 (活動指標:年度当初における、1・2年生の各教科の観点別評価に関するオリエンテーションの実施) (3)生徒の授業理解度、満足度を向上させるために、校内外向けの公開授業を実施し、授業研究や協議を通して、授業力の向上を図ります。 (活動指標:県立高校や近隣中学校の教職員、学校関係者評価委員への公開授業と校内公開授業週間の実施) (4)「生徒による授業アンケート」を実施し、教員個々の課題を明確にします。また、その課題を教科や学校全体で共有し、その後の授業改善に活用していきます。 (活動指標:「生徒による授業アンケート」 年2回実施) (成果指標:年度末の授業アンケートの「総合的にみて、松阪高校の授業に満足している」について、生徒の満足度80%以上)	【教務部】 (1)各教科で大学入学共通テストを検証し、問題作成の研究開発を実施した。 (2)1、2年生の授業で、4月当初に全科目で成績に関するオリエンテーションを実施した。 (3)外部向けの公開授業を10月に実施した。また、教育実習期間に併せて校内での公開授業週間を実施した。 (4)1学期末に授業改善アンケートを実施し、2学期以降の授業改善に活用した。また、全科目対象の授業アンケートを、1、2年生は1月、3年生は12月に実施した。「総合的にみて、松阪高校の授業に満足している」の項目に関しては1年生94.7%、2年生95.3%、3年生96.9%の生徒が「そうである」または「ややそうである」との回答があった。	

【働きやすい環境づくり】	(5)教職員を対象とした、授業改善に関する校内研修会を実施し、授業力の向上を図ります。 (活動指標:校内研修会 年1回実施) (6)授業やHRにおけるICT機器の積極的な活用を推進します。 (活動指標:各教科の特性に合わせたICTの活用実践) 【進路指導部】 1、2年生の模試の結果分析を進路指導部主導で行い、本校生徒の課題点を明確にし、授業改善に活用します。 (活動指標:1・2年生の模試結果分析 年3回以上実施) 【組織全体】 (活動指標) (1)設定した日の定時に退校できた教職員の割合 90%以上 (2)予定通り休養日を実施できた部活動の割合 100% (3)放課後に開催して 60 分以内に終了した会議の割合 90%以上 (成果指標) (1)時間外在校等時間が年 360 時間を超える教職員数 0人 (2)時間外在校等時間が月 45 時間を超える教職員の延べ人数 0人 (3)1人当たりの月平均時間外在校等時間 28 時間以下 (4)1人当たりの年間休暇取得日数 20 日以上	(5)11月に西大和学園中学校・高等学校の教諭を講師として招き、授業改善をテーマにした職員研修を実施した。 (6)各教科で、ロイロノート等を利用したICTの活用実践を行った。 【進路指導部】 1、2年の模試について、各教科科目の分布、経年比較、他校比較などを行い、共有した。 【組織全体】 (活動指標)4月から12月 (1) 97% (96%) (2) 100% (100%) (3) 73% (19%) ()内は昨年度 (成果指標)4月から12月 (1) 17人 (20人) (2) 102人 (116人) (3) 25.6時間 (29.7時間) (4) 18.5日 (18.4日) ()内は昨年度	※
改善課題 ・ 生徒の活動等を広報し、地域からの信頼の構築を図るため、次年度もホームページの整備や刷新に努める必要がある。 ・ 教員の過重労働は昨年度に比べ縮減されているが、目標とした数値を達成できていない項目もあるので、今後も引き続き取り組んでいく必要がある。			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	・ 生徒から保護者に情報が伝わっていないことがある。人権学習の内容など家庭でも共有してもらえるよう保護者にも周知する必要がある。 ・ 1人1台端末の授業での効果的な活用について、引き続き取り組む必要がある。 ・ 生徒自らが率先して校舎内を清潔にするよう意識付けをしていく必要がある。 ・ 生徒の課題探究能力(松高力)を育成する取組をさらに発展させる必要がある。
----------------------------	---

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・ ICTを活用した効果的な授業実践ができるよう、中学校の授業を視察するなど、授業改善を進める。 ・ 次年度から日課を変更し、掃除を放課後に行う。効果的に掃除を行い、生徒の美化意識を育む。
学校運営についての改善策	・ 学校家庭連絡システム(すぐーる)を活用して、保護者にも確実に情報が伝わるようにする。 ・ 時間外労働の縮減に向けて、会議や研修の精選、業務の効率化に取り組む。